

ホームページ用 お話の内容を復習してみました

R3.2.28 講演会

「香川県の石造狛犬 ～狛犬から見た讃岐石工の活動～」

講師：倉敷埋蔵文化財センター 主任 藤原好二氏

・商品としての石造狛犬から何がわかるのか？

鳥居や燈籠に比べて狛犬は形態差が大きい、地域性が現われる。

なので、石造物の流通や地域間の関係を読み解く資料として利用できる。

岡山に比べて香川県は銘入りの石造物が多い。

・香川県の狛犬 1500 対以上を調査した結果

屋外設置の最古は、宝暦 7 年（1757）の金毘羅さんの青銅狛犬。

台座は丸亀石工の中村屋半左エ門の銘がある。

石造は高見島の宝暦 11 年（1761）

1. 香川県の狛犬

約1500対を調査。

香川県最古の屋外設置狛犬



仲多度郡琴平町 金刀比羅宮
宝暦7年（1757）
鑄物師 柳州大坂住 長谷川久左衛門作／丸亀
石工 中村屋 半左エ門

香川県最古の屋外設置石造狛犬



仲多度郡多度津町高見 祇園神社
宝暦11年（1761）

狛犬は 18C 後半～なので、それ以降の状況しか分からない。石造物は流行りもの、その時の経済状況を反映する。4回の奉納ブームがある。ピークが岡山県とはズレがある。

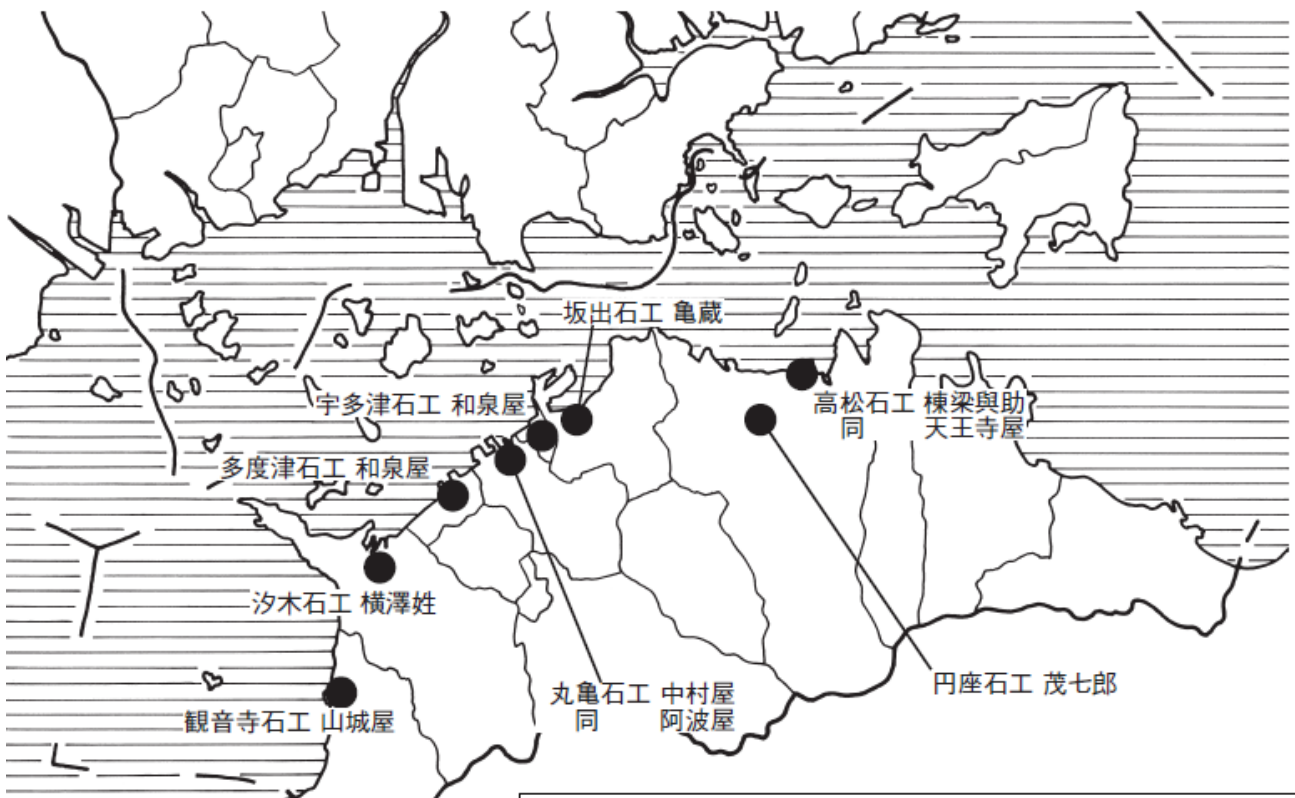
- 1 嘉永～慶應 の後、明治維新の混乱の後では、石工銘がガラリと変わる。
- 2 明治後半 国家神道
- 3 昭和初期 日中戦争までが一番多い
- 4 1990年代バブル期岡山は増えた、香川は直後に増えた。ずれている。

・狛犬の材質

江戸時代は砂岩が多い。花崗岩は江戸時代から今までずっとある。鷲ノ山石・由良石は明治以降に作られる。台座には江戸時代から使われている。豊島石は少ない。高松の南の方には瓦質のものある。素焼きのものもある。香川はいろいろな石がある。岡山は備前焼の比率が大きい。香川は少ない。

・近世の讃岐の石工達

2 讃岐の石工たち



丸亀石工中村屋 同 阿波屋、宇多津石工和泉屋、多度津石工和泉屋、観音寺石工山城屋、高松石工天王寺屋とかがある。近畿との関係を強調した石工さんが多い。岡山には安田屋と

半左衛門 藤原清重と半三の西讃型狛犬



西讃型狛犬

仲多度郡ほんのう町吉野
若林神社
万延2年(1861)



丸亀市本町 八坂神社
明治23年(1890)



中村屋銘石造物の分布

か尾道は山根屋、繁田屋とか畿内色は少ない。

近世の石工は西高東低。なんでだろう？西讃には金毘羅さん、琴弾八幡がある。

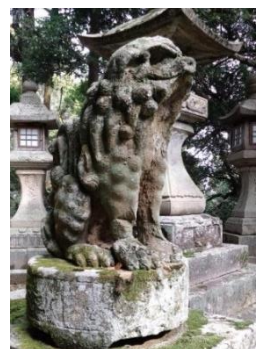
香川で「棟梁」を名乗るのは二人だけいる。

西の棟梁 丸亀石工中村屋半左エ門

17C 後半から 6 代続く。3 代目清品の狛犬は、岡山県の奥の方まで分布する。それは高梁川を高瀬舟で登る地域にある。金毘羅参りで買ってくるのが分かる。

讃岐の狛犬は台座に銘があるが、岡山のは方座(足元の部分)に銘が刻まれている。商品として買ってきて、基壇の部分は地元の石工が作るか、自然石で間に合わせている。5 代目清重は西讃型を彫る。6 代目横澤半三は清品の狛犬と西讃型の折衷形を彫る。

出雲型狛犬 鼻ツラが上向きにとんがっている。耳大きく垂れている。尾が枝垂れ尾、盤が円筒形の特徴をもつ。尾が一固まりに上に向いたものや、尾を上にとびかかるような形に構えたものもある。金毘羅さんに出雲型狛犬の最古あり(天明元年 1781 雲州松江石工門兵衛)。後になると、顔が四角く大きな顔になっていく。



西讃型狛犬 出雲型を模倣したもの。石工同士の交流で真似をしたのではなく、金毘羅さんの

狛犬を見た。形態の変化はしない。

尾道型狛犬の影響 玉に乗っているというパーツの導入

大坂石工の狛犬 文化文政に瀬戸内の島に多い。オール砂岩製。石工銘あり香川に8つ。特徴、尾がうちわ型、これが讃岐石工の特徴になっていく。

東の棟梁 高松石工 太田與助 中村屋半左エ門が棟梁を名乗らなくなってから棟梁を名乗るようになっていく。この理由は不明。

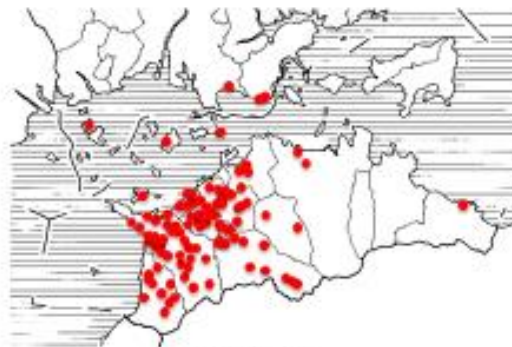
尾が3本峰が上に立ち、左右に2つずつ渦がまくのが讃岐の狛犬の特徴。

庵治石工の狛犬

桜八幡神社の大坂狛犬寛政4年の模倣が住吉神社享和2年、他所にもある。



観音寺市新田町 金安神社
弘化2年(1845)
「石工丸龜 阿波屋 甚七」銘



西讃型狛犬の分布



岡山市中区祇園 素盞鳴神社
安政2年(1855)
「西讃多度津 石工 和泉屋百次」銘

(3) 尾道型狛犬の影響

三豊市仁尾町 日枝神社
文政8年(1825)
「尾道 喜右衛門 作」銘



尾道型狛犬

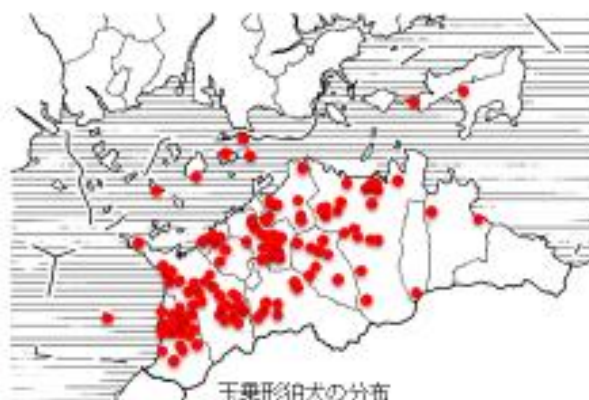
↓
パーツの導入



丸亀市山北町 山北八幡神社
万延2年(1861)
「ウタツ 石工 駒蔵」銘



観音寺市作田町 日枝神社
明治9年(1876)
「作人 保利 久七/石工 川江 木藤清兵衛」銘

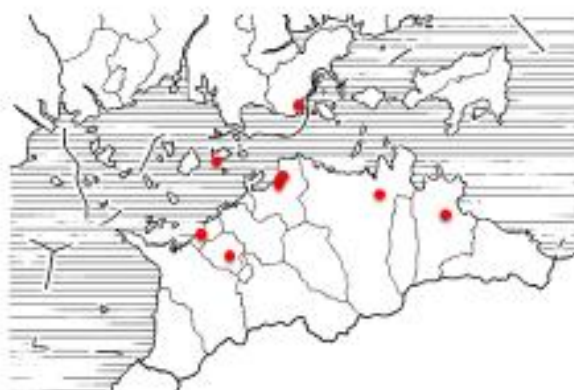


玉座形狛犬の分布

3 牟礼石工 和泉滝次の狛犬



坂出市高屋町 塩竈神社
昭和6年(1931)
「木田郡牟礼村 和泉滝次」銘



和泉滝次銘石造物の分布



広島県福山市新市町 天神社
昭和15年(1940)
「香川県牟礼 石匠 和泉滝次」銘

(6) 庵治石工の狛犬

1 大坂石工の狛犬を模倣



高松市庵治町
桜八幡神社
寛政4年(1792)
「石工 大坂西横堀 中村半六」銘

↓ 模倣



高松市庵治町
住吉神社
享和2年(1802)
「石工 常二良」銘

大町塩釜神社の高松石工佐兵衛 嘉永2年を模倣していく

牟礼石工 和泉滝次の狛犬 昭和5年～昭和15年

2 高松石工 佐兵衛の狛犬を模倣



高松市牟礼町大町
塩釜神社
嘉永2年(1849)
「石工 佐兵衛」銘

↓ 模倣



木田郡三木町田中
雷八幡神社
安政3年(1858)
「庵治村丸山 石工茂吉」銘

庵治石工 和泉喜多次の狛犬 大正 13 年～昭和 32 年

鷲ノ山石工の石造物 鷲ノ山石（安山岩）が多い 明治 25 年～平成 6 年

としお
兔子尾米吉、兔子尾与次郎、兔子尾長八、兔子尾正利。近代から狛犬を作り始める

由良石工の狛犬 文久年間から石造物あり、明治大正が多い。

小豆島石工 吉松銘 9 件 岡山でみかけていたので小豆島へ行く前は、たくさんあると思っていたが、なかった。豊島石工は倉敷へ修業に行っていたよう。

明治以降に庵治石工の活動が活発になる。高度経済成長期には「庵治石」がブランドとして確立した。

4 庵治石工 和泉喜多次の狛犬



仲多度郡まんのう町川東 山神社
昭和15年(1940)
「サヌキムレ 石工和泉喜多次」銘



和泉喜多次銘石造物の分布



丸亀市綾歌町 横山神社
昭和29年(1964)
「彫刻師 サヌキムレ 和泉喜多次」銘

資料掲載：藤原好二氏作成資料より

後日談

香川県立ミュージアムで「讃岐の石文化 -石舟の石工文化を中心に-

令和3年2月19日～4月11日が開催されている。

担当学芸員 酒井将年氏により講演会が3月13日にあった。

そこで、鷲ノ山石の狛犬の分布が、讃岐の瀬戸内沿岸域にはなく、中讃地域のかかなり南の山奥まで分布している。なぜ鷲ノ山（坂出市）より北にな

いのか理由がわからなかったが、藤原氏の講演を聞いて、沿岸部には名だ



中讃岐地域に、浪花型でもない何かを真似た感じの狛犬が多いなと思っていたが、これが鷲ノ山の石工達の作品だとすると、納得した。

丸亀市飯山町上法軍寺 皇子神社

讃岐の狛犬の特徴は、東讃の庵治石工の作品、西讃岐の西讃型のほか、「中讃型」と呼べるのではないかという石工集団があることがわかって、しっくりした。